

平成 27 年度教職大学院派遣研修報告書

| | | | |
|---------------|--|-----|-------------|
| 派遣者番号 | 27K13 | 氏名 | 後藤 勝洋 |
| 研究主題 —副主題— | クリティカル・シンキング能力を育成するための効果的な授業法の開発 —児童が作成した情報の信頼度を基に相互評価する活動を通して— | | |
| 所属校 | 渋谷区立西原小学校 | 派遣先 | 東京学芸大学教職大学院 |

| 項目 | 内容 |
|----------|---|
| I 研究の目的 | <p>今後の教育の重点になるであろう21世紀型スキルやESDカリキュラムの中でも育成すべき資質・能力の一つとして、クリティカル・シンキング(以下CT)能力が挙げられている。また、昨今の情報化社会の中において、児童は様々な情報に触れ、その情報を正確に判断する力や選択する力が求められていることからCT能力を学校現場で育成する必要がある。</p> <p>本研究では、CT能力を高める段階的なプロセスをデザインし、小学校の教科の中での問題解決学習と関連させてCT能力を育成する授業をデザインすることを目的とする。</p> <p>①児童の発達段階における小学校におけるCT能力の系統をデザインする。</p> <p>児童の発達段階に応じて、系統的にCT能力を育成する指導を行うことが重要であると考え。本研究では、先行文献や児童のアンケートを基に小学校におけるCT能力の系統をデザインする。</p> <p>②授業での研究仮説を以下のように設定し、授業実践において検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の信頼度の基準を自らが作り、自分の知識の情報源を改めてクリティカルに見ることで常に自分の知識や考えが正しいかを考えるCT能力が育成できる。 ・互いの考えを相互に評価し合う活動を行い、共通の目標を達成するために協働して考えることで、より高次のCT能力(具体的な改善案を出す等)が育成できる。 |
| II 研究の方法 | <p>(1) 児童の発達段階における段階的CT能力育成のプロセスのデザイン</p> <p>(2) 事前アンケート調査の分析</p> <p>(3) 小学校第6学年理科「ものの燃え方」の授業実践</p> <p>(4) 事前・事後アンケート調査の比較分析</p> <p>(5) 児童のワークシート記述の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童による情報の信頼度表の作成の有効性の検証 ・実験結果や考察を吟味するワークシートの有効性の検証 |

| | |
|----------------|---|
| <p>Ⅲ 研究の結果</p> | <p>①事前・事後アンケートにおいて有意な差が見られた項目は、「設問 2 分からないことがあると質問したくなる」「設問 5 自分の考えが正しいかいつも振り返るようにしている」「設問 19 友達の考えをよりよくするためのアイデアを伝えることができる」である。事前アンケートと同様に事後アンケートでも設問 2 と設問 5 には高い相関関係が見られ（相関関数.536）、今回の授業でどちらの態度も向上したと言える。</p> <p>②三回の問題解決での予想の場面における根拠の変化を分析した。問題解決①の段階では、何となく予想はできるが、その理論や根拠となる背景（体験等）を具体的に書くことができない児童が 11 名（全体の 3 割以上）いたが、問題解決やグループでの話し合いを繰り返すことによって具体的な説明ができるようになってきた。問題解決③では全体の約半分以上が情報の信頼度表に照らし合わせて、より上位の信頼度である具体的な経験を伴った説明ができるようになった。</p> <p>③実験結果・考察の検証場面での批判的なコメントの変化(ワークシート分析) 実験の結果・考察について、結果の信頼度や考察の妥当性を◎、○、△で吟味させた。△○については自分が納得できないところを具体的に記述するように指導した。◎については、特に優れた点を記述するように指導した。</p> <p>しかし、【問題解決①】では△についても具体的に記述できない児童がいた。◎についてはほとんどの子が具体的なコメントを書くことができていなかった。【問題解決②】から【問題解決③】では、◎についてのコメントも増え、全体のコメントも増えてきた。そしてより具体的なコメントに変容してきた。</p> <p>本研究で目指す具体的な指摘ができていたコメントの割合は、【問題解決①】の段階では、コメント全体の 40%であったが、【問題解決③】の段階ではコメント全体の約 70%になった。</p> |
| <p>Ⅳ 考察</p> | <p>今回の実践では情報の判断基準を明確にすることや、共通の問題を解決するという目標をもたせたことで、積極的に他者の意見を改善したり、自分の考えを見直したりすることができたと考える。そして、問題は多様な考えが出るものであった。自分とは違う考えがある場合、目標達成のためには最終的に意見を統合しなければならない。ただ、意見を合わせるのではなく、より良い解にするためには他者の考えを批判したり、自分の考えを見直したりする必要があるのである。</p> <p>以上を踏まえて、CT 能力を育成するためには、明確な目標をもって議論することや、多様な考えが出るような問題を作ることが必要であると言える。今後、様々な教科や単元において、児童の考えを引き出す問題を開発していかなければならない。</p> |

